

第6回心臓リハビリテーション指導士スキルアップセミナー報告

指導士認定制度委員会

牧田茂

平成21年2月21日（土）に大阪府吹田市の国立循環器病センターにおいて、第6回スキルアップセミナーが開かれました。定員70名のところ84名の参加があり、定員オーバーでお断りした方たちにはご迷惑をおかけしました。会員以外の方や指導士資格を持っておられない学会員の参加もありました。参加者の職種内訳は医師10名、看護師17名、理学療法士40名、臨床検査技師6名、管理栄養士1名、健康運動指導士9名、作業療法士1名で、関西地区のみならず遠く福島県や東京、四国、山陰地方からの参加者もあり大変熱心に聴講されていました。

プログラムは、心臓血管内科部長の後藤葉一先生（当学会副理事長）の「外来心臓リハビリ運営について」と「心不全の心臓リハビリのコツ」といったわが国で今後普及が望まれる分野について、分かりやすく解説していただきました。

続いて高木洋先生による「CPX 呼気ガス分析の読み方」というテーマで、運動負荷試験中の心事故についての考察や心不全患者のデータの解釈についてお話していただきました。

理学療法士の安達裕一先生には、「国立循環器病センター心リハプログラムについて」というテーマで施設の紹介があり、看護師の小西治美さんには、「心リハにおける工夫：看護師の立場から」という内容でご講演いただきました。

施設見学では、3グループに分かれて、回復期患者を対象にした広い集団運動療法室と急性期患者対象のウォーキングペースメーカーのついたトラックでの歩行運動風景と自転車エルゴメータ運動風景を見学することができました。その後の質疑応答では参加者から多くの質問が寄せられ、終了後にも講師の先生を取り囲んで意見交換するなど、関心の深さがうかがわれました。主催者としても大変有意義なセミナーであったと思います。国立循環器病センターのスタッフの皆様方ご苦労様でした。|